



令和6年5月14日

各位

会社名 日本基礎技術株式会社
 代表者名 取締役社長 中原 巖
 (コード番号 1914 東証スタンダード市場)
 問合せ先 常務取締役執行役員 事務管理本部長 田中 邦彦
 (TEL 03-5365-2500)

通期業績予想と実績値との差異及び法人税調整額（益）の計上に関するお知らせ

令和5年5月12日に公表しました令和6年3月期（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の通期業績予想と実績に差異が生じたこと、及び法人税調整額（益）を計上することとなりましたのでお知らせします。

記

1. 通期業績予想と実績との差異について

令和6年3月期通期連結業績予想数値の修正（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 23,000	百万円 900	百万円 1,100	百万円 550	円 銭 27.48
実績（B）	23,575	1,012	1,401	932	46.57
増減額（B－A）	575	112	301	382	—
増減率（%）	2.5%	12.5%	27.4%	69.6%	—
(ご参考)前期実績 (令和5年3月期)	23,908	778	1,008	526	25.40

令和6年3月期通期個別業績予想数値の修正（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 19,250	百万円 900	百万円 350	円 銭 17.49
実績（B）	19,711	1,493	989	49.41
増減額（B－A）	461	593	639	—
増減率（%）	2.4%	65.9%	182.8%	—
(ご参考)前期実績 (令和5年3月期)	21,960	1,396	702	33.87

修正の理由

（連結業績）

売上につきましては、国内では首都圏エリアでの大型電力関連工事が終息を迎えたものの、北海道内の高速道路の大型補修工事が順調に進捗しました。

また、米国現地法人でも、大型案件である LNG 精製プラント基地地盤改良工事が順調に進捗したこと、およびダムの地盤改良工事も着工したことから、全体では計画比 575

百万円の増加となりました。

営業利益につきましては、国内外の上記大型工事が順調に推移したことから、全体では計画比 112 百万円の増加となりました。

また、営業外損益では受取配当金の増加などにより、経常利益は計画比 301 百万円の増加となりました。またこれに伴い、当期純利益については、382 百万円の増加となりました。

(個別業績)

完成工事高につきましては、首都圏エリアでの大型電力関連工事が終息を迎えたものの、北海道内内の高速道路の大型補修工事が順調に進捗したことにより、461 百万円増加しました。またこれに伴い営業利益が計画比増加し、営業外収益においても受取配当金が予想を上回ったこと等により経常利益は計画比 593 百万円の増加となりました。

当期純利益については、特別損益において、減損損失を計上しましたが、売上が増加したこと等により計画比 639 百万円の増加となりました。

2. 法人税等調整額（益）の計上について

現時点において追加で発生が見込まれる原価を、令和 6 年 3 月期の費用として処理したことなどの理由により、繰延税金資産が増加したことから、法人税等調整額（益）185 百万円を計上しました。

以 上